



守りたい志賀高原の自然

四十八池は志賀山と鉢山の火山活動による安山岩溶岩の凹地に盆地状に形成された山岳型高層湿原であり、寒冷と貧栄養の生息環境下でミズゴケ酸と呼ばれる酸性物質を出し、酸によって他の植物が生活できない環境を作り微生物の働きを弱めることでミズゴケ、スゲ類が腐食しないまま数千年をかけて泥炭として堆積し、厚みを増し、元の水面より盛り上がることでより出来たものです。泥炭の堆積速度の違いにより沼の底部の泥炭層は年間〇・一ミリしか堆積しないのに対し、岸辺は年間〇七〜一ミリ堆積するため、年々水深が深くなっていきます。

この四十八池の湿原は平坦な湿地にミズゴケが生育して、雪解け水や伏流水の多少で多彩な沼の形状が作られています。等高線状に沿って湿原が発達、浅い沼から水深一メートルを超す深いものもあり、大小六〇以上の池塘(ちとう)と呼ばれる沼が点在する、志賀高原では最も広いミズゴケ湿原です。

湿原にはワタスゲ、イワシヨウブ、ヒメシヤクナゲ、ツルコケモモ、キンコウカ、ウメバチソウ、モウセンゴケなどが、池塘にはミヤマホタルイが水田の早苗のように生えて、ヤマアカガエルのオタマジヤクシやクロサンショウウオが生息し紅藻類のホソカワモズクも見られます。湿原の流水中にはミズバシヨウが生え、池糖の周りにはメタリックブルーに輝くエゾイトトンボ、アオイトトンボ等の細身のトンボが飛び回っています。

このような高層湿原は開けた景観域で有るため、湿原内への踏込みが多く、数千年かけて蓄積された泥炭層が流失し破壊されてしまい、一度壊されるとそこにはミズゴケは生えなくなり流水で侵食されたり、土砂などが流入したりして湿原の破壊が広がり、また一方では湿原全体が乾燥傾向へと進み湿原の回復は極めて困難とされています。

自然を大切にし、自然を育み、生物の多様性に大勢の人が関心を深め、特に湿原のような弱い自然には手厚い保護が必要とされます。

就任ごあいさつ



長野県環境測定分析協会
会長 勝野 宗一

阿部前会長の指導のもと会員はもちろんの事、県関連部局、日本環境測定分析協会、甲越同業者などの皆様の多大なご協力を頂戴し事務局を勤めてまいりました。この事について先ずは御礼申し上げます。

さて、リーマンショック後の一部企業がようやく回復の兆しが見えた矢先の3月11日の東日本大地震に伴う、津波、放射能、風評などの問題が日本は基より世界中に波及しております。規模的にはリーマンショックを上回る規模といわれており、気候的には新緑の春、新年度で新たな出発の時では有りますが私としてはすつきりしない状態を送っております。日本を取巻く厳しい環境下、世界の指導者が今提唱している新環境政策の中、環境測定・分析・コンサルタントはこれ等の根幹を担う分野で

あり、高い社会的使命度を要求されており、グローバル的に必用不可欠な分野であると確信致しております。自然環境が日本でも最も多様な本県の環境保全・快適環境創造の知識集団になって行く様、微力ではありますがが会員皆様と共に本会を進めて行きたいと思っております。しかし会員が置かれている現実は厳しい状況であると言わざるをえません。

① 低価格問題

② 技術力の格差

が主な問題要因と認識しております。同技術レベルでの価格競争はしかたないと考えられますが、安易な価格競争はユーザーへの品質低下に結びつくことを懸念致します。

これを旨に協会員、取巻く社会が良くなる様、活動をと考えております。

1. 会員のレベルの向上

2年前より積極的に進めている技術者各種研修会・精度管理事業などによる技術の向上を促進していきます。

2. 各会員の得意部分の尊重

会員事業所は環境計量証明事業を行っておりますが起

業DNAは各社異なっており、得意なノウハウを持っております。よい所を見習ってよくして行くことは可と思われませんが、土壌が違うので中々思う様には育たない。他会員を尊重し、認める所は認め、自らは更に磨きを掛けて頂きたいと思っております。

3. コミュニケーションを深める

現代はパソコン、携帯電話などが普及し家庭内でも会話が少なくなっております。

ナチュラル第9号に寄せて



長野県環境保全研究所
所長 荒井 高樹

このたびの東日本大震災あるいは県北部震災で被害に遭われた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

また、協会の皆様には、日頃から当研究所の業務に深いご理解と多大なるご協力をいただいておりますことに対し、

まして事業所内、同業者間では更に深刻ではないでしょうか？相互の理解、快適関係構築の場として本会を活用して頂きたいと思っております。

私生活面では以前広報誌ナチュラルでも紹介致しましたが、今全て中途半端な趣味の中に楽しく泳いでおります。ゴルフ・カラオケ・蘭科植物・刀剣・写真・苗字・読書・視察旅行・テレビ(世界ニュース、韓国歴史ドラマ...)。宜しくお願い致します。

この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

当研究所は、水・大気環境・廃棄物などの生活環境分野、感染症、食品などの保健衛生分野に加え、自然環境分野も含めて幅広く環境・保健衛生を取り扱う試験・研究機関として、県の環境行政、健康福祉行政を科学的・技術的基盤から支えており、県内における環境の悪化や健康被害を未然に防止するため、種々の試験検査、調査研究、あるいは教育・研修、情報発信などの業務を行っております。

本年は、冒頭でも述べまし

たが、3月11日に東北地方太平洋沖においてM9.0の巨大地震が発生し、福島県双葉郡の大熊町と双葉町にある東京電力福島第一原子力発電所における地震・津波被災は世界規模の原子力事故となってしまいました。長野県も当初、その影響を受けましたが、現在は落ち着いた状況になっております。放射能に関しましては、当研究所では昭和51年7月より文科省(当時の科学技術庁)の委託を受けて長野県内の環境試料や食品試料の調査を実施してきましたが、現在はこの事故を受けまして、より多くの検体を検査するなど監視体制を強化して放射能調査を行なっております。放射能測定は皆様が日頃取り組んでいる環境計量からは若干なじみが少ない分野と思われませんが、広く捉えらると環境測定分析と密接な関係があり、関心も高い事案だと思っております。

環境や健康に対する県民の関心の高まり、あるいは当研究所に対する多様なニーズに信頼される、開かれた研究所を目指してまいりますので、貴協会の一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ



長野県環境部
部長 荒井英彦

長野県環境部長の荒井英彦でございます。長野県環境測定分析協会の皆様には、日頃から本県の環境行政の推進にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、技術研修会の開催や研究成果の発表、精度管理調査への参加など、会員各社が技術研鑽に努められておられますことに敬意を表します。

本県では、「第二次長野県環境基本計画(平成20～24年度)」に基づき、基本目標である「豊かな循環が育む水と緑のふるさと・信州」を目指して、県民・事業者・行政などあらゆる主体の参加と連携のもと、水・大気環境や自然環境の保全、地球温暖化対策、循環型社会の形成など、持続可能な社会に向けたさまざまな課題に取り組んでおります。

このような中で、水・大気環境の保全に関する最近の動向としては、水質汚濁防止法及び大気汚染防止法が本年4月1日から改正施行され、事業者による排出水の測定項目等が定められるとともに、測定結果の未記録、虚偽の記録等に対して罰則規定が設けられました。県では、工場・事業所の立入検査等を通じて、事業者による自主検査が適正に行われるよう周知徹底を図ることとしております。

また、平成21年度から水質常時監視業務の一部について民間委託して実施しておりますが、23年度は検査の効率化を図るため、検査項目を一部追加して行っております。さらに、23年度は新たに県内33河川を対象に水生生物保全に係る水質環境基準の類型指定を行う予定であり、水質保全対策の充実を図ります。

現在の複雑多様化する環境問題に対して適確かつ迅速に対応するには、基礎資料となるデータが必要不可欠です。県民の環境への関

心が高まる中、測定分析に携わる皆様の役割は、今後ますます重要性が高まるものと確信しております。

協会の皆様におかれましては、本県の環境の保全のために引き続きご尽力いただきますようお願いいたしますとともに、貴協会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝を心より

ナチュラル発刊に寄せて



長野県計量検定所
所長 山上 繁

今年の4月から長野県計量検定所長を務めております山上繁でございます。

日頃から、長野県環境測定分析協会の皆様には、県の計量行政の推進に大変なお力添えを賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。ご

皆様には、大変お世話様になります。今後とも、協会の

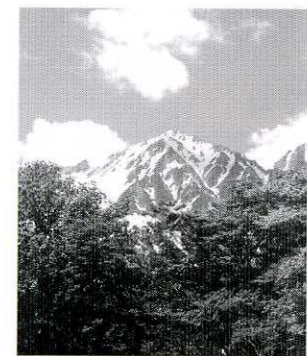
さい、このたびの東日本大

祈念いたしましたして、ご挨拶とさせていただきます。

震災並びに長野県北部地震で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く平穏で安心できる日々が訪れますようお願いいたします。

私も計量検定所は、適正な計量の確保に向けて、「正しい計量の確保」「計量思想の普及・啓発」等を主なテーマとして取り組んでいるところですが、とりわけ、濃度・騒音・振動などに係る環境測定分野である環境計量証明事業につきま

しては、公害防止を始め環境保全や健康影響調査など多種多様化する社会ニーズに対応して行くうえで、極めて重要な役割を担う事業であると認識しております。



このような中で、貴協会におかれましては、昭和53年の設立以来、「環境計量に関する技術の向上と適切な環境計量を実施し、もって生活環境の保全と改善に資する」ことを目的に各種事業に積極的に取り組んでこられ、特に、「統一制度管理試験」への参画や「精度管理研修」など分析技術の向上と信頼性の確保の面で大きな役割を果たすとともに、天竜川及び信濃川水系の水質調査や県内一斉の雨水調査の実施など、県内の環境問題の解決に向け大きな貢献をされていくところでございます。

貴協会の活動に深く敬意を表するとともに、当所としても、環境測定分野における適正な計量の確保を図るうえからも、引き続き貴協会の取り組みにしっかりとお手伝いをさせていただきます。

結びに当たり、貴協会の一層のご活躍にご期待を申し上げますとともに会員皆様の益々のご発展をご祈念申し上げます。就任のごあいさつとさせていただきます。

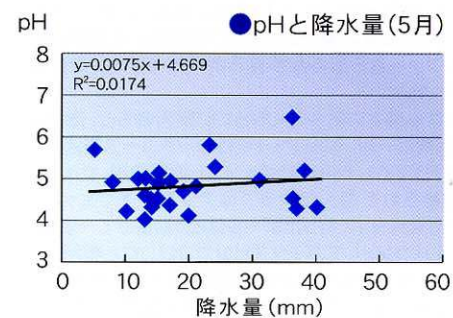
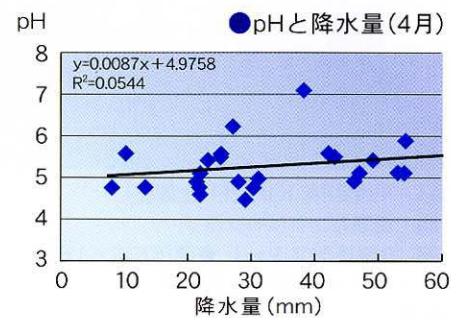
平成22年度 技術部会活動報告 長野県下水水調査の実施

環境汚染の一つに数えられている酸性雨の長野県下における実態を把握するため、協会の全機関が参加・協力のもとに平成18年から雨水調査を実施しています。

協会に所属する検査機関が県下各地にあることを活用し、4月と5月に県下一斉の降雨時に各検査機関が雨水を採取及び成分測定することにより、県下各地の同時における雨水の水質を比較して状況を把握しようとするものです。県下一斉の雨降りの日を見極めるのに天気予報による状況からの判断が必要でした。分析項目は酸性雨調査で必要とされているpHをはじめ主な陽イオンと陰イオンの物質を測定していただきました。測定値を検討する上で、雨水の受け皿であるビーカーの設置場所の環境を確認するため、設置状況がわかる写真の添付を求めました。また測定値に影響を与えらると思われる状況については測定結果の評価に活用するとともに適切な採取を指導しました。参加・報告24機関、6月に結果報告を受け、過去4年間(平成18~22年度)の状況も盛り込んだ報告書として取りまとめました。

その他の22年度活動については、8名の技術部会執行委員により年4回の技術部会を開催し、前年度からの継続事業や単年度事業を協議、検討しながら次のとおり進めました。

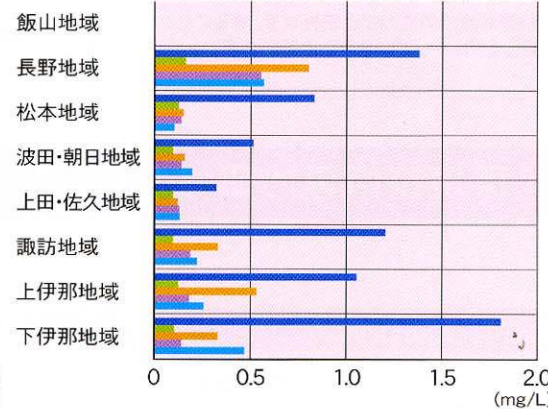
[環境専門研修(1)基礎講座(2)技術専門課程][技術研修会][研究発表]
技術部会は、会員の皆様に分析における知識、技術を身に付けていただくための活動ばかりでなく、会員の交流の交流を図り、情報交換をしやすくすることも念頭に活動して参ります。 技術部会長 滝澤 光



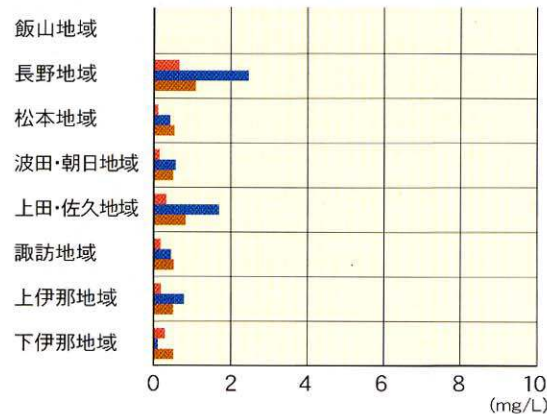
●各地域における陽イオン濃度(4月)



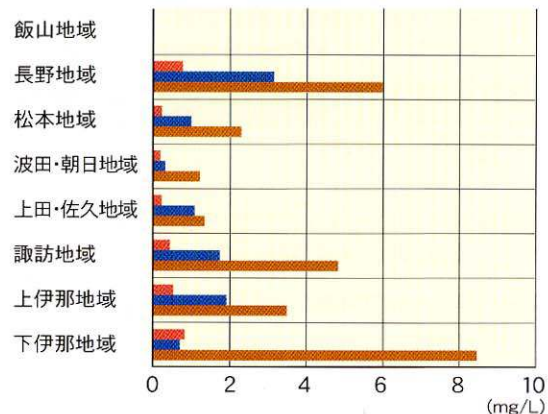
●各地域における陽イオン濃度(5月)



●各地域における陰イオン濃度(4月)

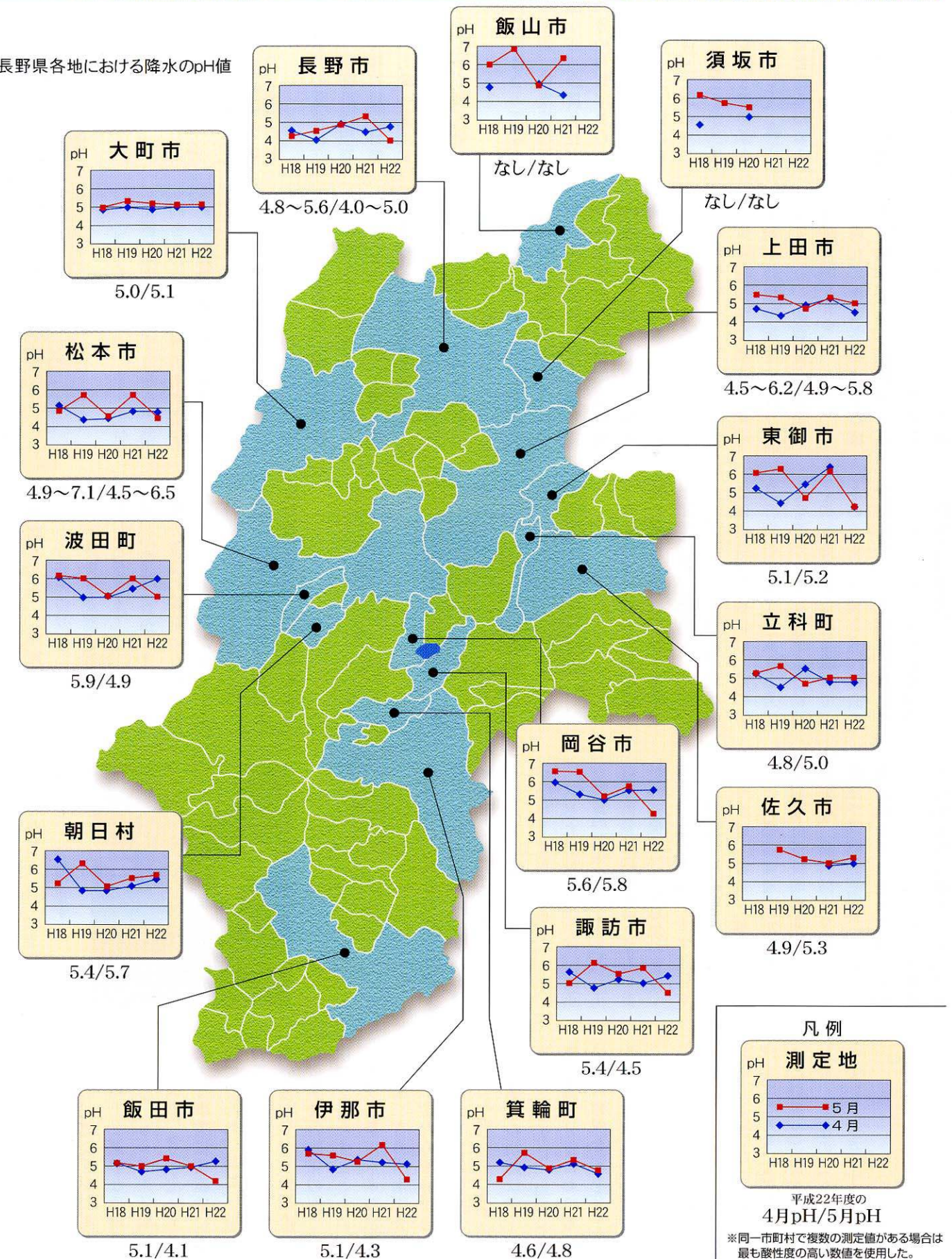


●各地域における陰イオン濃度(5月)



※飯山地区は22年度欠測

●長野県各地における降水のpH値



凡例
測定地
pH
5月
4月
平成22年度の
4月pH/5月pH
※同一市町村で複数の測定値がある場合は最も酸性度の高い数値を使用した。

第10回
長環協ゴルフコンペ
開催
総務部会

今年の長環協ゴルフコンペは平成二十二年十月二日に塩嶺カントリークラブにて開催致しました。前日に甲信越環境測定機関協議会を今年度は長野県が当番であるために「御柱年」の諏訪で行い、甲信越環境測定機関協議会ゴルフコンペと合同で行いました。絶好のゴルフ日和の中、総勢五組十八名の参加で和気あいあいとした雰囲気の中、懇親を深め楽しい一日を過ごしました。

結果は、十回という節目の大会のとおり本人もビックリ奇跡(?)のホールインワンをした佐倉正晃さんが見事に優勝しました。ビッグサイズのトロフィーと豪華景品を手に収めました。

ちなみに、甲信越環境測定機関協議会コンペの優勝者は、佐藤勝行さん(山梨県)でした。今年度も秋に長環協ゴルフコンペを開催する予定です。ふるってご参加賜りますようお願い申し上げます。

記事 梅垣和彦



- ◆開催日/平成22年10月2日(土曜日)
- ◆会場/塩嶺カントリークラブ
- ◆時間/9時15分スタート ◆競技方法/18ホール・新ペリア
- ◆費用/プレー・飲食費各自負担
- ◆競技結果

| 順位 | 氏名・所属 | りんどう | すずらん | GROSS | H.C. | NET | 備考 |
|-----|-----------------|------|------|-------|------|------|---------|
| 優勝 | 佐倉正晃 環境未来(株) | 41 | 50 | 91 | 18 | 73 | ホールインワン |
| 準優勝 | 武田淳志 (社)長野市薬剤師会 | 43 | 40 | 83 | 9.6 | 73.4 | BG |
| 3位 | 清澤 浄 (株)理学 | 43 | 44 | 87 | 12 | 75 | |



二つの快挙

環境未来(株) 佐倉正晃さん

私はゴルフをプレーするときは常々、「スコアの結果よりも楽しんでプレーすることに意義がある」と思っておりますが、今回なんと協会ゴルフコンペにおいて優勝と同時にゴルファーなら誰もが夢見るホールインワンを達成いたしました。

その日は心地よい風の吹く秋らしい晴天のもと、奇跡はりんどう6番ホール、129ヤードのショートコースで起こりました。打ち下ろして少しアゲインストの風の中、キャディさんに勧められて選んだクラブはアプローチウェッジ。力を抜いて気持ちよく打ったボールはピン目掛けて一直線、ピン奥に1パウンドしてバックスピンでコロコロと転がってカップインいたしました。ゴルフをはじめから十数年目にして成し遂げた心に残るホールインワン達成でした。今回の二つの快挙はご一緒に楽しくラウンドさせていただいた皆様方のおかげでございます。本当に有り難うございました。

今回の快挙が自分の実力だと錯覚せず、奢ることなくこれからも楽しくプレーしていきたいと思っております。

2011 環境技術専門研修のお知らせ

1. 環境技術研修

- 日時:平成23年7月上旬の2日間
- 場所:未定
- 研修内容:環境概論、環境事業の現状、化学実験器具操作法の基礎、労働安全衛生、試薬の取り扱い、サンプリング、測定値から報告値の取り扱い

2. 技術専門研修

- 日時:未定
- 場所:未定
- 研修内容:ICP-MS、イオンクロマトグラフ、水質、細菌検査、土壌、騒音、振動、農薬検査
- ◆技術専門研修は長野県環境保全研究所のご協力をいただきます実施します。内容、日程等詳しい要項は後日連絡いたします。

Report2010

環境技術専門研修をうけて

(社)長野県労働基準協会連合会
諏訪測定所 岡本直樹

環境専門研究会(振動・騒音)に参加させていただきました。講義と実習の形式でそれぞれ1日ずつ行われ、講義においては測定の根拠となる法律の話や測定の方法といった基礎的な話の他にも、最近行われた改正の話やこれから進んでいくと思われる法律の方向性などの話があり、大変興味深かったです。また、自社で行っていない分野の測定についても、これを機会に勉強することができ、大変有意義でした。

実習については、騒音と振動を実際に測定し、チャートを描くといった基礎的な作業を行い、測定方法の再確認ができたのが良かったと思います。また、オクターブ分析器を用いた周波数分析も行いましたが、オクターブ分析は初めて行ったので貴重な体験になりました。



わが社の

ニューフェイス

第9回

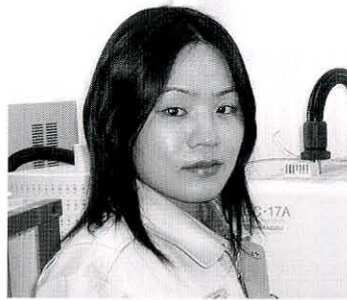
南信環境管理センター株式会社

環境調査部

坂野有希さん

信州の自然に囲まれて

「人類最後の日」という本に衝撃を受け、環境を守らなきゃ!と、使命感を抱いた純粋な幼少時代を四国で過ごしました。海外を放浪、ぼい捨て当たり前なインド人とバトルなんてしていた、いまいち純粋ではない学生時代。アウトドアにのめり込み、瀬戸内から毎週末のように長野県に通っていた、いまいち真面目じゃない社会人時代。
 紆余曲折な人生だったけど、自然の中で、自然と生きる長野県民になりたくて、信州に移住し、南信環境管理センターにひろっていただき、環境分析の仕



事に就いているのは、自分の根っこに環境に対する想いがあったからでしょうか。じつとしていられない性分なので、野外のサンプル採取も、室内の分析も楽しんでやっています。
 どうしょ〜う助けて〜!!と、騒ぎながら働く私を温かく支えてくださる社内のみなさまに感謝しつつ、仕事も私生活も元気に楽しく!
 追伸：新人研修で知り合った他社のみなさん、また語り合いましよう!

事業所訪問

第9回

飯山市 株式会社ワールドエコ

〒389-2253 飯山市大字飯山2689
 TEL:0269962662200 FAX:026996266221

株式会社ワールドエコです。旧ヤマコーの検査センター(飯山市)を引き継いで事業を行っています。新規事業所とっていいのか几分(?)ですが、とにかく新しい社名で検査センターが発足したわけです。専任スタッフ2名という控えめなスタートです。
 北信地区にある6社でシングループをいう組織を作っています。関係するスタッフはおよそ180名。当社もそのうちの1社です。関連企業が土木、建設、建

築物の解体を行っているので、土壌、室内空気、建材中のアスベスト測定を得意としています。また、栄村の水を利用したアクアクララ(ミネラルウォーター)の製造販売、太陽光発電システムの販売も行っています。

3月12日、本社のある栄村で大地震が発生しました。家が全壊、半壊し避難所生活を余儀なくされた社員もいます。アクアクララの工場も一部損壊しました。その後、「メッキ工場

の廃液が漏れて地下水が汚染された可能性がある。混入の恐れは無いか。」「原発事故による放射能汚染の影響はどうか。」「等の問い合わせが多々ありました。」



私の趣味自慢

株式会社ネイテック

武市 祐さん

私がサッカーを始めたのは小学校2年生頃だったと思います。当時習字を習っていたのですがどうしても嫌で、友達がやり始めたサッカーをやりたいと親に頼んで地元のサッカークラブに入りました。ただ、動機が不純だった事もありまったく面白くなかったです。グラウンドの外の電車ばかり眺めてはコーチに怒鳴られてばかりいました。

サッカーをはじめて数年たったある試合、たまたま混戦から抜け出してドリブルしてゴールを決めました。ゴールを決めたのはうれしかったのですが、それよりもドリブルで抜けた時のグラウンドが今までと違った広さ、解放感でとても面白く感じました。それからはサッカーの魅力に取りつかれ、まじめに練習するようになりました。結局、関節の慢性痛で本格的なサッカーはあきらめました。が今でも週に一度フットサルを楽しんでいます。フットサル以外でもサッカー観戦は楽しみの一つです。少し長い休みなら日本代表、



Jリーグも見に行きますし、最近仲間たちと松本山雅の試合をよく見に行きます。テレビ観戦でもいいですが、やっぱり生のスタジアムは違います。特に山雅は今、かなりおもしろいと思います。最初は、サッカーファンとして観ていたのですが地元サポーターと仲良くなったり何度も観に行く内に、だんだん感情移入してしまいました。今、山雅にはJリーグ創成期の頃の浦和、柏のような熱さがあります。一つ一つの階段を上っている過程もおもしろいし、地域性も絡んで老若男女問わず応援している一体化がとて面白いんです。興味がありましたら皆さんも一度観戦に訪れてみて下さい。

賛助会員ご紹介

タカヤマケミカル株式会社

当社は昭和四十九年に高山理化精機株式会社の薬品事業部が分離独立して誕生した三十七年の歴史を持つ会社です。

起業当初は大学向けに研究用試薬や理化学機器などを中心に販売しておりました。しかしながら長野県の産業界にも半導体製造という革新的な先端技術が導入され、時代が大転換をしたのに合わせ営業ポイントも大きく変化して参りました。時代のうねりに合わせて当社も大きく舵を切ってまいりました。

各種電子デバイス用高純度薬品の取扱開始と並行し、信州CIC/SCC研究所という事業としてクリーンルーム用ウェア専門洗浄という新しい事業を行うようになりました。この工場では現在ウェアの洗浄のみならず各種基板の搬送ケースや高度な清浄度を要求される実験器具類の精密洗浄も行っており、最先端技術の下支えをしております。また物流面ではお客様の生産増や緊急出荷に耐えられるよう物流センターを持ちTRY・Sという入出庫システムにより、間違いなく御依頼品がお手元にジャストインタイムで届くように管理されております。

このように当社は時代の最先端を常に見つめ、地域の商社として皆様のお声を伺いながら地域社会のお役に立てるよう歴史を刻んでまいりました。本年度は山梨県の御客様の御要望にお応えすべく営業所及び危険物倉庫を建設予定で松本本社と茅野市の拠点と合わせ三拠点での活動となる予定です。

近年ではライフサイエンス部門にも専任メンバーを配置し、分析手法の高度化にも対応できるよう人材育成をしております。純水製造装置の保守点検については特に力を入れ、あらゆるニーズにお応え出来る体制を整えております。またBCP(事業継続計画)の必要性が重要視されるなか、薬品事故防止の為、貴協会の新入社員向け研修会では「薬品の安全な取扱い」というテーマで当社社員が講師として永続的な企業活動の一助となるよう啓発活動をさせて戴いております。

様々な形で貴協会皆様のご発展をお手伝いできるよう、当社の社是である「誠意・熱意・創意」の精神に基づき企業体としての総合力で努力して参りますのでご指導・ご鞭撻賜りたく存じます。



本社



松本物流センター

本社/松本市笹賀5652-106
TEL.0263-26-1500
FAX.0263-26-3531
info@tc-c.co.jp www.tc-c.co.jp

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災、続いて12日の長野県北部地震で被災されました皆様には心からお見舞い申し上げます。

今まで安心安全と言われてきた原子力が、この震災では福島原子力発電所で事故が起り、わが国で初めての大规模な放射能被害が発生しました。このことによりわが国特有の産業で自然の恩恵を利用した一次産業、つまり農林業、漁業については多くの被害をもたらしており、終息が何時になるのかは不明の状況が続き心配しております。

また、この震災により原子力に頼る電力供給の見直しで各電力会社で見直される中、浜岡原子力発電所の運転停止が決まり、電力需要に対して家庭、事業所とも今後の省エネルギー、節電に心がけなければならぬ状況になりました。皆様のご協力をお願いいたします。

近年食品の生産地偽造等、食に関する問題が取り上げられているなか焼肉店での生肉用食材による腸管出血性大腸菌食中毒が発生し、死者、重症患者がでました。食の安全に関しては日本ではかなり厳しく行政が指導しているようですが、生食を好む我々としては心配が尽きません。

今回もナチュラルに原稿をお寄せいただきありがとうございました。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

発行 長野県環境測定分析協会
編集 総務広報部

TEL.0266-2625
長野市大字北長池字南長池地2058-3
(株)科学技術開発センター内
TEL.0266-26332010
部長 若林恒雄(株)科学技術開発センター
副部長 梅垣和彦(コエエエ)
小林孝(日本フレイジング) 部員
高井信博(財)中部公衆衛生研究所
白井賢治(株)東信公毒研究所

制作 有限会社 スタジオスペース1 担当 酒井
TEL.0266-26221990